

【BRIDGE施策2】 ネイチャーポジティブ経済移行戦略を踏まえた、各セクターにおけるルールメイキングと市場創造のための戦略検討促進事業

【研究開発プロジェクト名】 ネイチャーポジティブ経済移行戦略を踏まえた水産業（養殖業）におけるルールメイキングと市場創造のための政策提案

【研究開発期間】 令和6年度

【研究開発代表機関名/研究開発責任者】 EY新日本有限責任監査法人 ユー・イヴォーン

【概要】 水産養殖業領域におけるルール形成・市場創造に向けての我が国の将来の水産養殖業の絵姿、我が国における水産養殖に関連する技術を利用した新規事業モデル、それらに対するファイナンススキームを考案した上で、今後水産養殖業を加速するルール案を提言する。

【背景・課題】

- 水産養殖業の2032年の世界の生産消費ギャップは約0.41億(t)、推計で約873億ドル^(※)となる中、**ネイチャーポジティブ(NP)**で**サステナブルな日本の養殖業の実現に向けた将来の絵姿を構築**する。
- 本ギャップを埋める経済効果は大きく、それらを目指したNPな水産養殖業構築に3つの課題と推進に向けたルール案を検討した。

(※) THE STATE OF WORLD FISHERIES AND AQUACULTURE (FAO, 2024) を基に試算

＜3つの課題＞

課題①	水産養殖業の将来的な絵姿はどのようなものか？
課題②	NPな水産養殖業をどのように事業化するか？
課題③	NPな水産養殖業を推進する金融メカニズムとは何か？

【実施内容・成果】

実施内容	- NPに向けた課題を整理した水産養殖業の絵姿の構築 - 技術動向を踏まえたNPな水産養殖事業モデル案検討 - 金融制度における施策の方向性の整理
成果 “ルール案”	- 国際的にネイチャーポジティブに伴う規制 - 認証制度を用いたブランディング制度 - 市場創造を加速させるインセンティブ制度

【今後の展望】

- 実際にNPな水産養殖業を達成する為に以下の検討が求められる
 - NPに資する水産養殖業のモデル事業構築、実践のためのフィージビリティ・スタディの実施、水産金融制度の構築
 - NPに資する水産養殖業のモデル事業実践と水産金融制度の策定

【研究成果概要】

Task1：NPな養殖業に向けての課題

- 作業船からのオイル漏れによる海洋汚染、GHG排出
- 天然種苗や生餌採取による資源減少
- 餌資料、糞等による水質/低質の汚染 …等

市場動向① 環境課題の解決に向けた養殖事業者の対応

ルール案① 上記環境課題に対する評価等のルール案
国際的な環境負荷低減に関する提言

×

Task2①：養殖業のNP達成につながる技術

- 陸上養殖・海面海藻養殖・IoTを用いた管理、スマート給餌機・アクアボニックス …等

市場動向② 企業の上記技術開発の為に研究開発への注力

ルール案② 開発・実証に関する補助金制度拡充
(BRIDGEや各種国研との共同研究等の支援)

上記の課題対応と技術向上により以下のような事業が発展すると想定

Task2②:NPな養殖業を実践する事業モデル(案)

- 海藻や貝類等利用した多栄養段階養殖(IMTA)
- 再生可能エネルギーを利用した陸上養殖
- 養殖廃棄物の循環システム構築 …等

市場動向③ ネイチャーポジティブな水産物の市場での販売、消費者認知向上に関する企業努力の支援
認証水産物生産量に応じたインセンティブ付与の為に制度(経産省、農水省と連携)、FAO、GSSIの評価基準、MEL等の認証制度に環境課題解決や技術使用の要件を追加(ブランディング制度)

ルール案③

←

③-1~3. 養殖事業への金融支援拡充

- 民間金融資金の動員に向けた障壁の整理

ルール案④-1 PFS等のブレンデッドファイナンス制度の制定(金融庁や内閣府と連携)

- 水産金融制度の充実による資金提供

ルール案④-2 ルール案④-1での不足を補完する水産金融制度の制定(水産庁と連携)

市場動向 市場での動きの想定

ルール案 市場動向を加速させるルール案

※太字は活用するフォーラム等の例

市場創造
認証を受けた国内産NPでサステナブルな養殖水産物の市場(外食産業・小売店)での取扱い増加

【実施体制】

報告

提言

WG
コンソーシアムチーム(研究主体)

- EY新日本監査法人
- 東京大学
- 農林中央金庫/農中総研
- 株式会社ニッスイ

オブザーバー

- 水産庁 栽培養殖課
- 全漁連
- 全国海水養魚協会
- 水産業・養殖業専門家 等